第9回 小さな展覧会

京都発掘'91

1991.8.17～9.1

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

ごあいさつ

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1990年度に41件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのうち注目された発掘を18件とりあげ、京都府内の各機関の発掘成果12件とあわせて展示しています。

昨年度、センター10周年記念の特別展覧会でお休みした「小さな展覧会」も、今年で9回目を迎えました。今回は、昨年の大きな展覧会の経験をふまえ、展示と図録に前回までと少しちがった新味をだしてみました。これからも、より親しみやすくわかりやすい展示を目指して工夫していきたいと思いますので、皆様の率直な御意見をおまちしています。

今回の展示に御協力いただいた各関係機関をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館ならびに後援をいただいた京都府教育委員会に感謝いたします。

1991年8月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長　福山敏男

凡　例

1．本図録は、1991年8月17日～9月1日の第9回小さな展覧会「京都発掘'91」の展示図録である。

2．展示品は、京都府埋蔵文化財調査研究センター及び各機関が主として1990年度に発掘調査を行った遺跡・遺物を対象とした。

3．収録した写真は、京都府埋蔵文化財調査研究センター・京都府立山城郷土資料館が撮影したもののほか、次の機関・個人から提供をうけた(順不同、敬称略)。
峰山町教育委員会　宮津市教育委員会　加悦町教育委員会　園部町教育委員会　京都市考古資料館　向日市埋蔵文化財センター　長岡京市埋蔵文化財センター　宇治市教育委員会　山城町教育委員会　京都府教育委員会　共同通信社　松村茂

4．資料調査、図録作成、展示品借用に当たっては、上記の写真提供者のほか、各関係機関・個人の方々から御指導、御協力を受けた。

5．本図録の作成は、高橋美久二(山城郷土資料館)、辻本和美・磯野浩光・平良泰久(京都府埋蔵文化財調査研究センター)が分担し、平良がまとめた。

表紙カット：抽象化した獣面4つを描いた鏡　木津町瓦谷古墳　　► 瓦谷古墳の埋葬施設

目　　次

遠所遺跡…… 1
大耳尾古墳群…… 2
霧ヶ鼻古墳群…… 3
蔵ヶ崎遺跡…… 4
内和田古墳群…… 5
蛭子山・作山古墳群…… 6
桑飼上遺跡…… 8
天若遺跡…… 9
黒田古墳…… 10
八木嶋遺跡…… 12
塚本古墳…… 14
平安京跡…… 15
伏見城跡…… 16
長岡京跡左京第251次調査…… 17
長岡宮跡第248次調査…… 18
長岡京跡左京第252次調査…… 19
雲宮遺跡…… 20
今里城跡…… 21
内里八丁遺跡…… 22
興戸遺跡…… 24
浄妙寺跡…… 25
蟹満寺…… 26
瀬後谷遺跡…… 27
瓦谷古墳…… 28
その他注目の遺跡…… 30
珍品あれこれ…… 31
展示品リスト…… 32

遠所遺跡（えんじょ）（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

6～8世紀
弥栄町木橋

丹後に最古級の製鉄遺跡発見

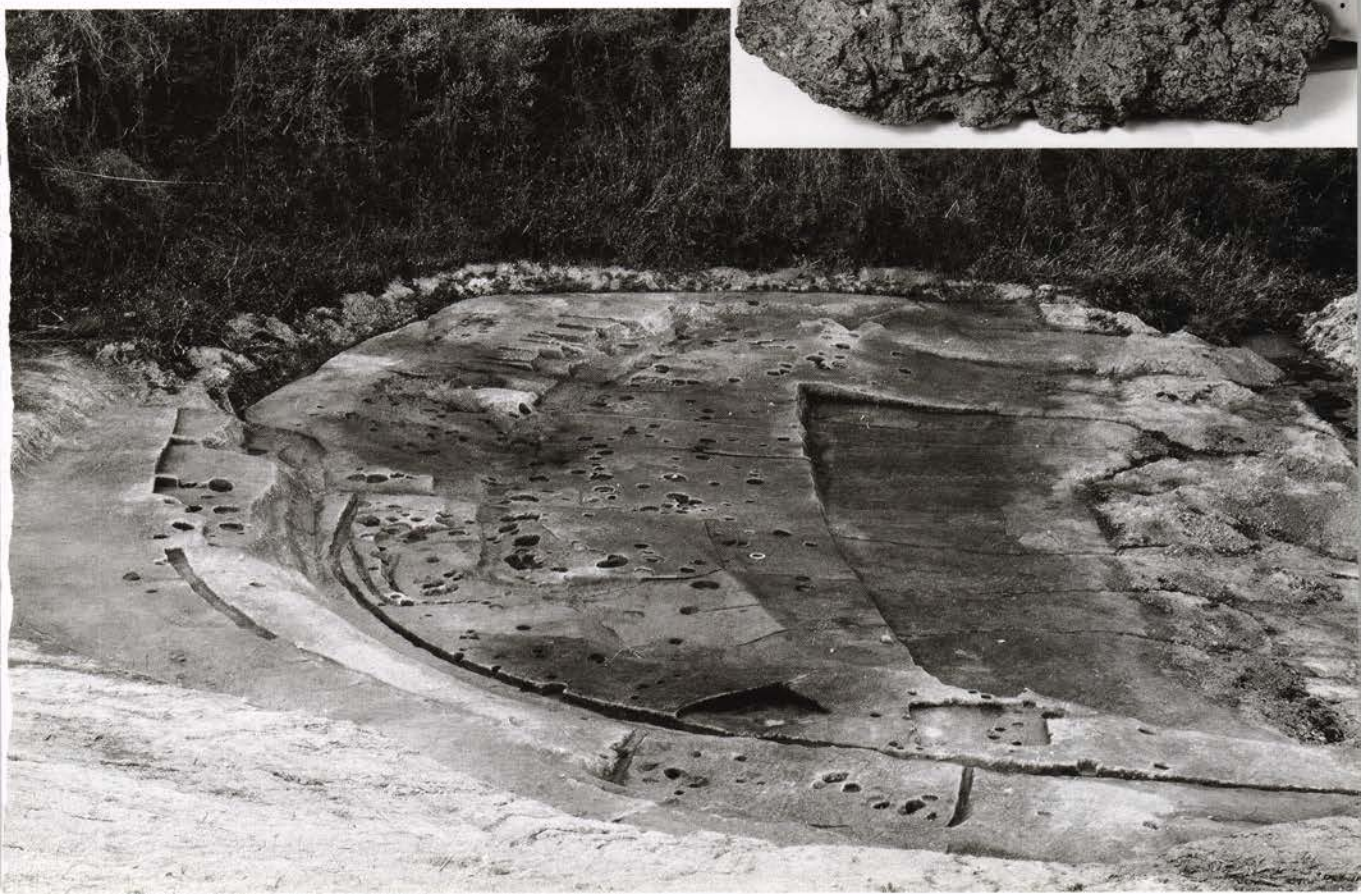
調査対象面積48ヘクタール、普通の発掘方法ではいつ果てるとも知れない。重機をフルに使って全山の表土を総剝（は）ぎすると、山肌のあちこちに赤く焼けた炉や窯（かま）の跡があらわれ、下の谷からは鉄滓や土器が続々みつかった。これが、簡単な構造のためにみつかりにくい製鉄遺跡発見の端緒である。

年代の中心は6世紀後半と8世紀後半の2時期。6世紀のものが日本最古級として注目を浴びたが、8世紀のものがより重要だ。そこでは、砂鉄を原料とする製鉄炉から鉄製品をつくる鍛冶炉（かじろ）までの一貫工房のようすが判明した。

▼ 砂鉄を溶かす炭を焼いた炭焼窯（すみやきがま）

► 砂鉄から鉄をつくる途中で出た不純物「鉄滓（てつさい）」と製鉄炉に空気を送りこむフイゴの羽口（はぐち）（送風管）

▼ 製鉄工房　掘立小屋のなかの炉で鉄をつくり、鉄を加熱し叩いて製品をつくる。



大耳尾古墳群（峰山町教育委員会）

5～6世紀
峰山町赤坂

土の造形、珍品ザクザク

丹後半島のまん中、峰山町から網野町にぬける谷筋の丘陵上にある。

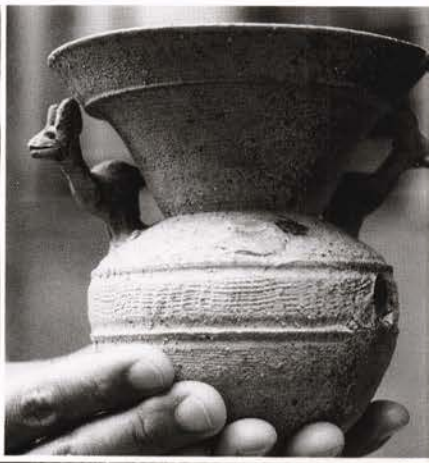
円墳と方墳各２基を発掘、合計11の木棺の内外から玉類・馬具・武器・工具・土師器・須恵器などがみつかった。

なかでも、１・２号墳出土のおびただしい量の須恵器は逸品・珍品ぞろいである。円筒形の器台は、島根県金崎古墳出土品と同じ形の古式の逸品であり、動物の角製の杯の形に似せた角杯は、京都府ではじめての出土である。シカのような動物の飾りをつけた甑も珍品だ。

◀ ２号墳の埋葬施設

▼ 角杯

▼ 飲料をそそぐ甑



霧ケ鼻古墳群（宮津市教育委員会）

4～7世紀
宮津市須津

丹後で流行した横穴式石室

野田川の河口に近い丘陵上に14基の古墳が並んでいる。

1989年に５基、90年に４基の古墳を発掘、まわりを削って木棺を埋めただけの方形台状墓から後期の横穴式石室まで、一つの墓地で時代の変化をたどることのできる格好の遺跡である。

６・８号墳は横穴式石室をもつ円墳だが、６号墳は死者を埋葬する玄室がそこに通じる羨道より一段低くなる竪穴系横口式石室というタイプである。この石室は、丹後や日本海沿岸地域で流行した。なかには、板石を立て並べた石棺があり、玉類や鉄鏃・鉄斧・須恵器などがみつかった。

► ６号墳の横穴式石室

▼ 水筒の形をした須恵器（提瓶）

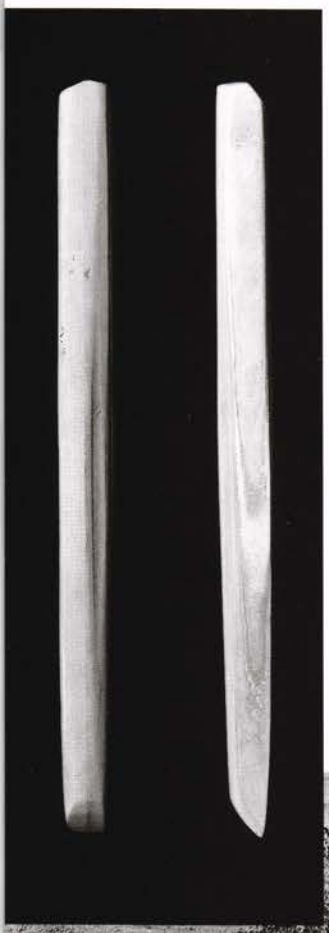
蔵ケ崎遺跡（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

前３世紀
加悦町明石

朝鮮半島舶来?の石ノミ

加悦谷の東側の台地の先端にある。以前にたくさんの弥生前期の土器がみつかって注目されていたが、はたして今回の発掘でも弥生前期の溝がみつかり、弥生土器や石器、炭化した米その他の植物種子など多量の遺物が出土した。この溝は、台地の裾をめぐり、湿地の排水路とみられる。

なかでも木材の加工に使う石ノミは長さが18㎝、朝鮮半島製とみられる精巧な淡緑色の優品である。土器の文様は、日本海沿岸に分布する綾杉文が多い。半島―北九州―山陰ルートで伝わったのだろうか。



◄ 舶来(?)の石ノミ
► 丹後最古の弥生のツボ
▼ みつかった排水路

内和田古墳群（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

3～4世紀
加悦町明石

弥生の終わりから古墳前期の墳墓

蔵ヶ崎遺跡から1㎞下手(北)の丘陵上にある。細い尾根を切り削って古墳がつぎつぎ並ぶ、丹後の典型的な小規模古墳群である。

3基の古墳を発掘し、2号墳からは布留式土器がみつかり、4号墳からは鉄剣と銅鏃がみつかった。

5号墳は、東西15m、南北12mのいびつな長方形で、墳頂の平坦部に16もの木棺墓や穴を掘っただけの土壙墓がある。鉄製品をもつものもあるが、副葬品は少ない。埋葬施設の多くは古墳時代前期(4世紀)、一部に弥生時代後期(3世紀)のものがある。弥生墳墓が古墳に利用されたものだが、こうした例は丹後にいくつかある。

▼ 銅製の矢尻(銅鏃)

► 墓にそなえたツボやカメ

▼ 16もの墓穴がみつかった5号墳

蛭子山・作山古墳群（加悦町教育委員会）

4～5世紀
加悦町明石

装いを一新、築造当時の姿に復原された古墳

蛭子山古墳は、一つの丘陵を削り土を盛って造りあげた日本海側で第３位の規模の前方後円墳である。前方部から後円部にのぼる通路の石敷があり、それをのぼりつめたところに柱穴とニワトリの土製品がみつかった。これは、鳥居の原型かと話題になった。

作山古墳群は、蛭子山古墳の南側の丘陵上にある古墳群。造出し付き円墳１・円墳１・方墳２・前方後円墳１からなり、古墳の形や段築・葺石・埴輪などの外表施設のあり方などバラエティゆたかである。１・２号墳は、古墳のまわりに、木棺や埴輪棺・壺棺などが多数埋葬されている。特殊な従者たちの墓であろうか。

５号墳は、１号墳の造出しの下にある方墳。長さ6.4mの木棺から日本製の内行花文鏡や貝の腕輪をまねた石釧、首飾りがみつかった。

この古墳群は、いま築造当初の形に復原工事が行われ、1600年前の姿によみがえった。はずである。

► 土で作ったニワトリとイノシシ

▼ 前方部から後円部への参道　蛭子山古墳

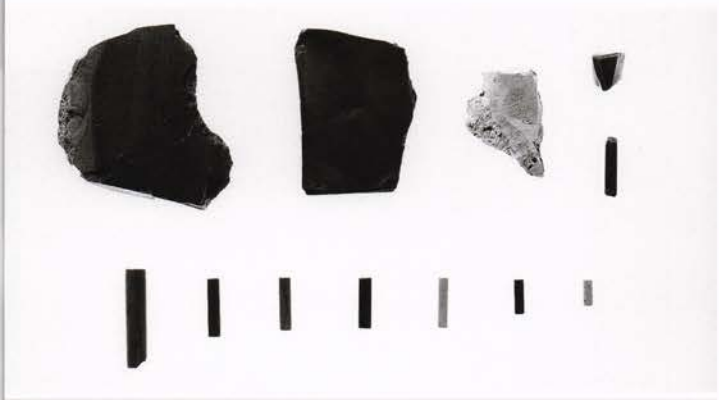
▶ 頂部のすぼまった丹後独特の円筒埴輪

▲ 復原された作山1号墳

◀ 首飾りと腕輪形の宝器

桑飼上遺跡（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

前2～8世紀
舞鶴市桑飼上



原石から製品・道具まで、玉造りのセット

京都府北部の由良川南岸の自然堤防上にある弥生時代中期(前2世紀)から奈良時代(8世紀)の集落である。

遺構は2層にわかれる。上層の奈良時代の面では竪穴住居・土坑などがみつかり、下層の弥生中期の面では竪穴住居・土坑・方形周溝墓などがみつかった。住居からは、土器や石器とともに玉類の原石や未製品・砥石などの玉造り関係遺物が出土した。玉造りの遺物が揃ってみつかったのは京都府では初めてのことであり、自給自足的に小さな規模で行われた玉造りのようすをうかがうことができる。

▼ 管玉の原石・造りかけの半製品・完成品

◀ 原石から玉の形を切りとる石ノコ

▼ 弥生時代の竪穴住居

天若遺跡（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

5～9世紀
日吉町天若

多数の住居がみつかった丹波山中のムラ

亀岡盆地で大堰川と呼ばれた桂川は、さらに上流では上桂川と名前を変える。天若遺跡は、その最上流に近い山間の小さな段丘にある集落である。

ダム建設に先立つ発掘で、古墳中・後期の竪穴住居５棟のほか、奈良～平安時代の掘立柱建物や木枠を残す井戸などがみつかった。遺物のなかには、旧石器か縄文時代とみられる石器類もあり、この地がさらに古くから人々の生活の舞台として開けていたことがうかがえる。

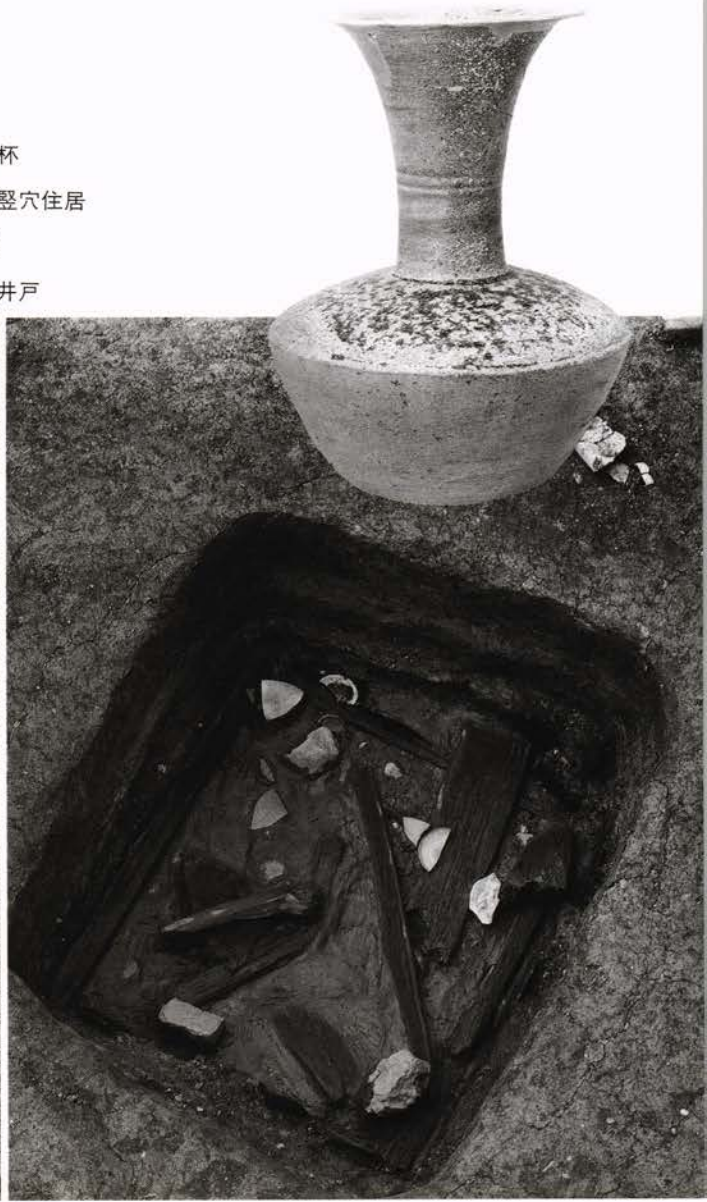
このあたりは、筏流しによる木材運搬の中継基地として栄えたところであり、今回みつかったムラも丹波の木材の伐り出しと搬出に関係するものとみられる。

◀ 須恵器の高杯

▼ 古墳時代の竪穴住居

▶ 長頸のツボ

▲ 奈良時代の井戸



黒田古墳（くろだ）（園部町教育委員会）

3・4世紀
園部町黒田

最古の古墳か、弥生の墓か

京都府のほぼ中央、園部盆地の西の丘陵先端部にある全長約52mの前方後円墳である。後円部から2基の埋葬施設がみつかった。中心主体には、底に敷いた石の上にコウヤマキ製の木棺が長さ3.5mにわたり腐らずに残っていた。これは万に一つの珍しい例だ。中国後漢の鏡や鉄鏃・管玉などが出土した。主体部の上面には弥生時代から古墳時代への過渡期に作られた庄内式（しょうないしき）土器を供えており、この遺跡が出現期の古墳か弥生時代の墳丘墓か、大いに議論が沸いた。

いま遺跡は保存され、公園として整備、公開されている。例のないスピーディな対応である。

◀ 墓に供えた飾りたてたツボ

▼ 姿をあらわした前方後円墳　手前が前方部

▲ 時代の転換期の王の棺　まんなかにあるのがコウヤマキの棺の一部

► この鏡をもったものは出世するという吉祥句のある鏡

八木嶋遺跡（やぎのしま） （京都府埋蔵文化財調査研究センター）

5～7世紀
八木町八木嶋

大規模な古墳時代の豪族居館

大堰川の右岸、山ふところの平地にある。約8,000㎡を発掘、古墳時代から中世にかけての掘立柱建物や竪穴住居・井戸・墓・水路など多数の遺構や遺物がみつかった。

なかでも、調査地の北側でみつかった40棟近くにのぼる掘立柱建物群は、6世紀末～7世紀前半の豪族の居館として大いに注目を集めた。

二、三回建てかえられており、同時に14、15棟前後の建物があったらしい。建物には、大きさや構造で格付けがあり、最大の主殿は140㎡（84畳）、正方形の特殊なお堂のような建物もある。

建物のある範囲は南北約100m、全国的にもめずらしい大規模な豪族居館である。

◀▼ 古墳時代の豪族居館

▲ 居館の復原

主殿の奥には正方形の楼閣(ろうかく)状の建物がある。吉凶などをうらなったまつりのヤシロか。さらに背後には、掘立柱建物に混じって竪穴住居がある。従者の住居か。

► 水路でみつかった木製品や土器

水のまつりか。5～6世紀

塚本古墳（京都府教育委員会）

5世紀
八木町神吉

木製の埴輪がみつかった方墳

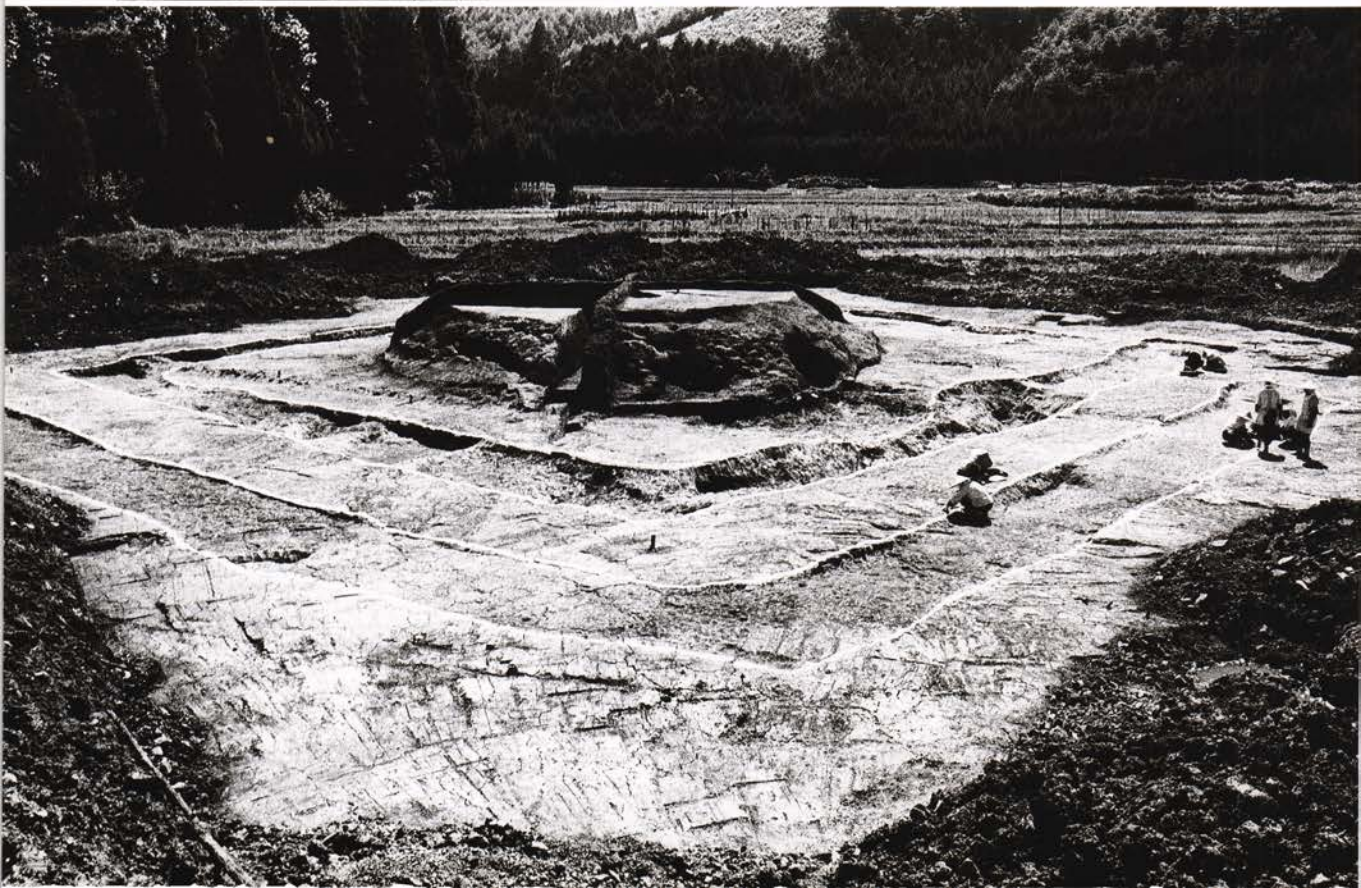
丹波山地のまっただなか、神吉盆地と呼ばれる小さな盆地にある。水田の中に小さな高まりがわずかに残っていたが、発掘すると、まわりに二重の溝をめぐらす一辺28mの堂々とした方墳であることがあきらかになった。

埋葬施設は削りとられてなくなっていたが、周溝から多数の埴輪片がみつかった。なかには、軽妙なタッチでシカの絵を描いたものがある。笠形をした木製の埴輪も1点みつかった。向日市の今里車塚古墳に次いで、京都府で2例目である。

この方墳は、5世紀後半にこの盆地を治めた豪族の墓とみられるが、じつはこの地で古墳がみつかったこと自体が新鮮な驚きだった。

▶ 木製の埴輪

◀ シカを描いた円筒埴輪　▼ 姿をあらわした古墳の全貌



平安京跡（へいあんきょう）（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

9～19世紀
京都市上京区

上京西洞院の町衆の暮らしぶり

京都府庁は、幕末の京都守護職松平容保（まつだいらかたもり）の屋敷の跡である。府庁内の今回の発掘では、平安時代から江戸時代にかけて西洞院（にしのとういん）大路（西洞院通）の道路幅がしだいに狭くなっていくようすや道路沿いの町屋の生活をしめすさまざまな遺構や遺物がみつかった。

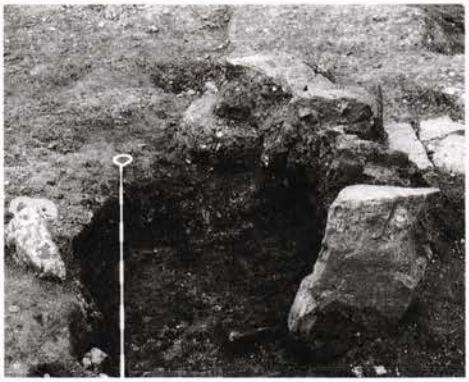
とくに、井戸やごみ拾て穴からは、17世紀、江戸時代初めの日本製の高級陶磁器や中国・李朝朝鮮で作った焼物類が多数みつかり、この地に住んでいた町衆の裕福な暮らしぶりがうかがえる。

▶17世紀の高級陶磁器

▼西洞院通と両側の町屋

伏見城跡（ふしみじょう）（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

16～17世紀
京都市伏見区



長州藩毛利氏の大名屋敷？

伏見城は、1596年豊臣秀吉が木幡山一帯の地に築いた壮大な山城である。関ヶ原の合戦のあとは徳川氏の居城となり、軍事・経済の中心が大坂城に移るとともに廃城となった。その間約30年、謎の多い短命の城である。

今回の調査地は、現在の地名が毛利長門西町、毛利氏の屋敷と伝えるところである。整地層をはさんで前後2時期に分かれる建物や築地・井戸・溝などがみつかった。一隅に石組みのカマドを据えた建物もあり、台所など、屋敷の裏方部分とみられる。

出土品には秀吉好みの金箔（きんぱく）瓦があり、絢爛豪華（けんらんごうか）な桃山文化の遺風を伝えている。

▶ 車輪の紋の金箔瓦

◀ 石組みのカマド

▼ みつかった建物や井戸

長岡京跡 左京第251次調査 （京都市埋蔵文化財研究所）

8世紀
京都市伏見区

都市計画の整備と水のまつり

左京の七条二・三坊にあたり、桂川に近い海抜8.5mの低地である。いまでも水がつきやすく、長岡京の都市計画が施工されたかどうか、疑問があったところである。

この予想は半分あたり、半分ははずれた。整然とした道路の側溝が設計どおりにぴたりとみつかったが、町の中に住宅は建設されていなかった。区画整理はしたものの、土地条件が悪く、誰も住まなかったのだろう。

六条大路と東二坊大路との交差点には自然の川が流れ、そこから人の顔を墨で描いた土器・ミニチュアのカマド・土馬（どば）・人形（ひとがた）などが多量にみつかった。水をしずめるまつりのあとだろう。

► 川で行われた水のまつり

▼ まつりの土器
人面墨描土器・ミニチュアのカマド・土馬

長岡宮跡第248次調査（向日市埋蔵文化財センター）

8世紀
向日市向日町

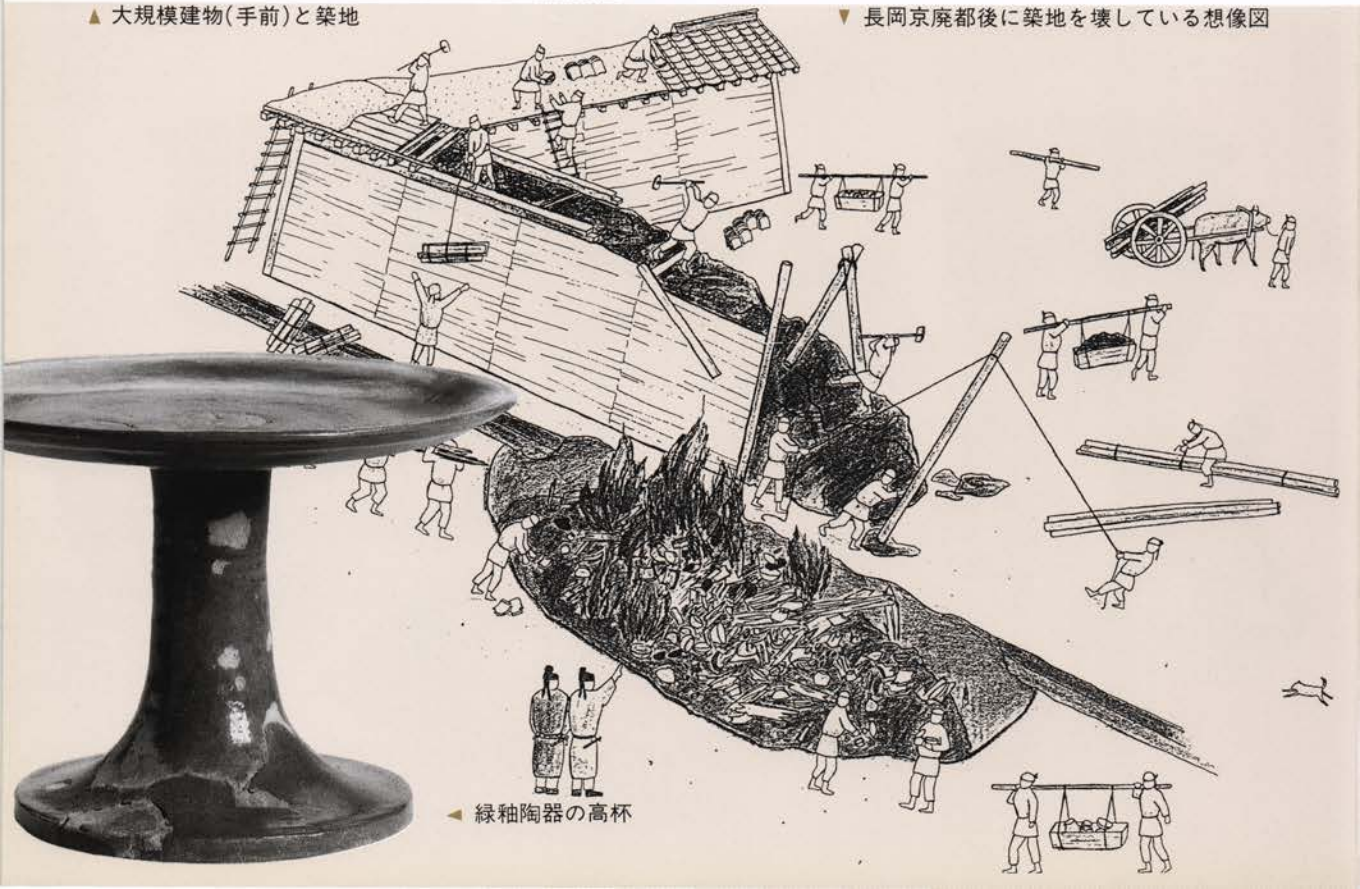
▲ 大規模建物（手前）と築地

西北の役所の大規模建物や築地

宮内西北の発掘で、大規模な役所の建物や築地などがみつかった。南北方向に続く築地の一部を調査したもので、幅７ｍもある土台の上に叩き締めながら盛り上げた築地の基礎がみつかり、築地に沿って２列の添え柱列がみつかった。この築地は規模が大きいことから、大きな区画の役所を囲むものと考えられた。築地の東側では、南北方向の大規模な掘立柱建物がみつかった。これらは、第82次調査でみつかった大規模な礎石建物を正殿とする役所と考えられ、その区画は東西幅74ｍ（約250尺）に復原できる。

築地を破壊して掘り込んだ大きな穴から、土器・瓦・土錘・鉄釘・かすがいなどが出土した。土器のうち、緑釉陶器の高杯は類例の少ない資料で、この役所の性格をあらわす貴重なものである。

▼ 長岡京廃都後に築地を壊している想像図



◀ 緑釉陶器の高杯

長岡京跡 左京第252次調査

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

8～9世紀
向日市上植野町

廃都後につくられた国立の役所

左京三条一坊十二町にあたるが、長岡京の時代はあまり使われず、廃都後の平安時代になってさかんに利用される。

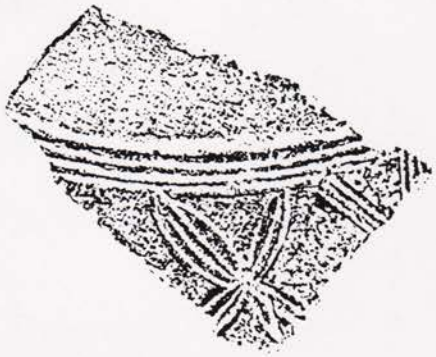
長岡京の道路の側溝を埋め立て町割りをこわして、そこで建物を幾度も建て替えている。出土品には、建物の縁石などに使う凝灰岩切石や平安宮の大極殿に葺く瓦、さらには緑釉や灰釉などの高級陶器などがあり、とても一般の住宅に使えるものではない。記録によれば、長岡京の跡地は、役所や貴族の住宅に利用される例がある。今回発見の遺跡は、こうした施設の一つであろう。が、約百年ののち、火災によって灰燼に帰したとみられる。

◀ 緑釉陶器の皿
▶ 平安宮の大極殿と同じ笵(型)でつくった瓦
▼ 東西に並ぶ建物群

雲宮遺跡（くもみや）

（長岡京跡左京第216次・
京都府埋蔵文化財調査研究センター）

前３世紀
長岡京市神足



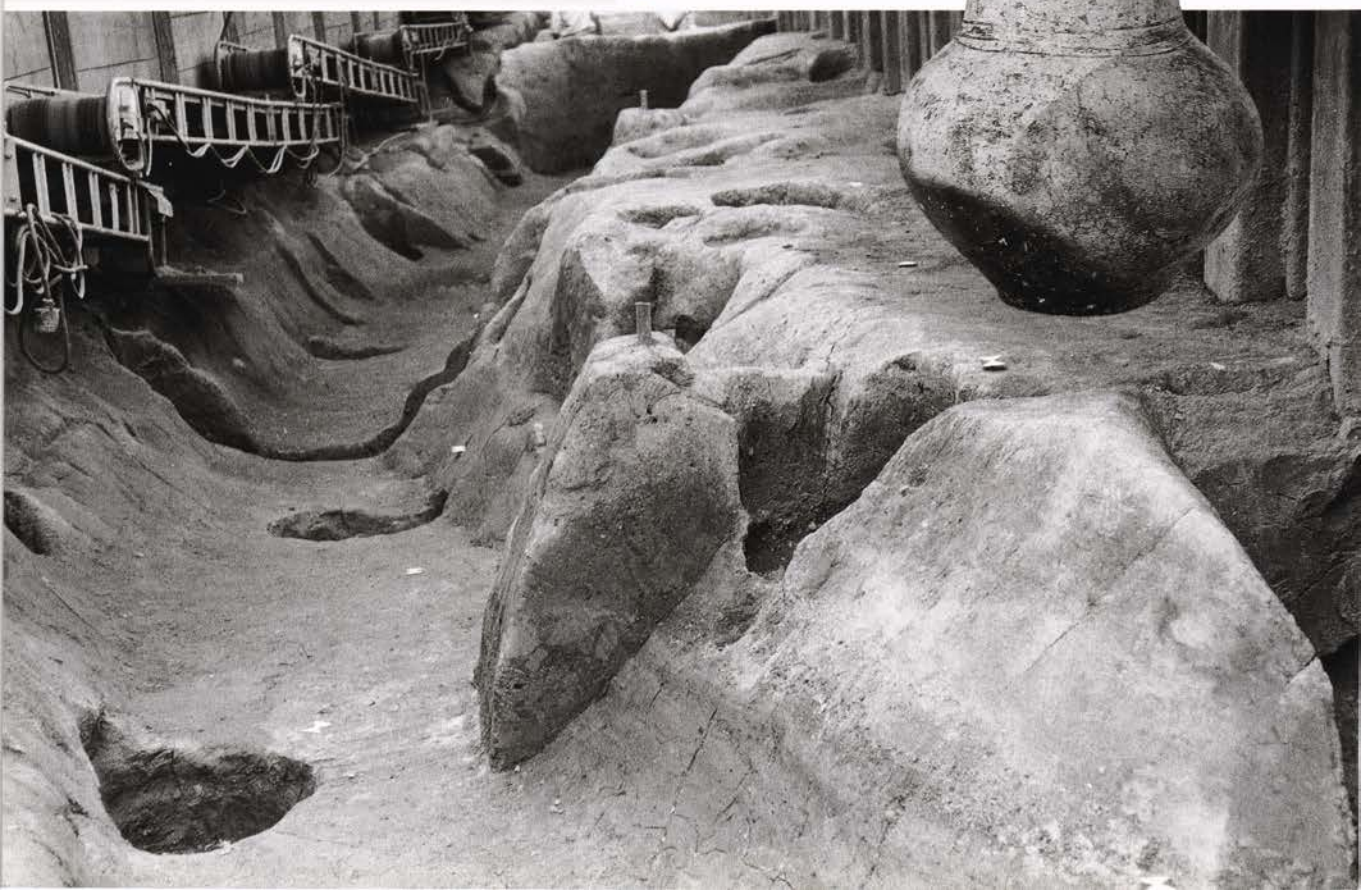
京都盆地の弥生文化の原点

長岡京市の東端、桂川の西岸の平地にある。横をひっきりなしに車が行きかう国道脇の狭い調査地で、弥生前期の溝がみつかった。これこそ、学史に残る雲宮遺跡のムラをとり囲む環濠（かんごう）の一部である。

濠（ほり）は、うちそと二重にあり、その内側には柵（さく）がめぐる。外側の濠は内濠が埋まったあとの掘りなおしである。

濠のなかからは、石鏃・石庖丁・土製の紡錘車・木製の農具や京都最古の弥生土器や「木の葉」状の文様を黒地に赤の顔料やヘラで描いた土器などが出土した。

◀「木の葉」状の文様
▶ 山城最古の弥生土器
▼ みつかった環濠



今里城跡（長岡京市埋蔵文化財センター）

15～16世紀
長岡京市今里

城館の堀から人名や年号を書いた木札

今里城は室町時代の西岡（乙訓）地方の国人の一人であった能勢氏の城館であったと考えられている。

この今里城跡の東南の隅と思われる部分の堀が発掘され、堀に架かった橋や井戸などがみつかった。堀は規模の大きい部分で幅５～７ｍ、深さ約２ｍもあった。この堀の底から２組の橋脚の柱がみつかり、橋が架けられていたことがわかった。橋の大きさは長さ約５ｍ、幅約２ｍに復原された。堀や井戸の中から、土器や瓦のほかに、多数の木器が出土した。漆器椀・木球・羽子板・下駄・建築材など多彩であった。その中で、とくに「大永二年」「ひこ五郎」と書かれた木札が注目された。これは、城の年代の一端を知ることができるとともに、文献から「ひこ五郎」は国人「能勢彦五郎」のことと推定され、城館の主までも推定される貴重な資料である。

◀ 東側の堀

► 備前焼お歯黒壺とレントゲン写真 銭や鉄片が入っている

▲ 内外面に「十七日」と書いた土師器皿

▼ 大永２（1522）年の年号を書いた木札

内里八丁遺跡（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

3～8世紀
八幡市内里八丁

出た！弥生時代の水田

八幡市の南部、木津川の沖積平野のまっただなかにある。奈良時代から古墳時代、弥生時代の終わりと次々下層に掘り進め、これで発掘も終わりと思ったところで、さらに下から弥生後期の水田がみつかった。

アゼで区画された水田は、洪水によって一気に埋まったために、砂で密封された状態でよく残っていた。一枚10～40㎡の小さな四角い水田が44枚みつかり、そこには直径５～７㎝の小さな穴が無数にあいていた。これをみた京都大学東南アジア研究センターの高谷好一さんは棒で突いて早苗を植えるための穴だと考えた。岡山

◀ 水田にも畦にも無数に広がる稲株のあと

▼ 水田に水が入ったようす

県の百間川遺跡に次ぐ、本格的な稲株のあとの発見として、一躍全国に知れわたった。

水田の上層には弥生終末期～古墳出現期の方形周溝墓があり、さらにその上には飛鳥・奈良時代の建物群がある。飛鳥・奈良時代の遺物には、役人のベルトの飾りである石帯が数点あり、またこの地が、京都大学の足利健亮さんの復原する古代山陰道に沿うこととあわせ、ただの一般集落とは考えられないところだ。

▼ 土でつくったニワトリ
方形周溝墓のまつりに使ったものだろう。

► ベルトの飾り（石帯）表(左)と裏

▼ 飛鳥・奈良時代の建物

興戸遺跡（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

2～10世紀
田辺町興戸

古代の国道沿いの役所

木津川の西岸の丘陵裾部に展開する広大な遺跡であり、これまでの発掘で縄文時代から中世にいたるさまざまな遺構や遺物がみつかっている。

今回の発掘では、奈良～平安時代の掘立柱建物や塀・井戸などがみつかった。井戸は、直径１ｍの木をくり抜いた井筒が腐らずに残っていた。

京都大学の足利健亮さんは、調査地の西側を斜めに走る直線道路を奈良時代の山陽道と考えており、今回の建物はそれと方向が一致する。綴喜郡の郡役所の付属施設もしくは役人の住宅とみられる。

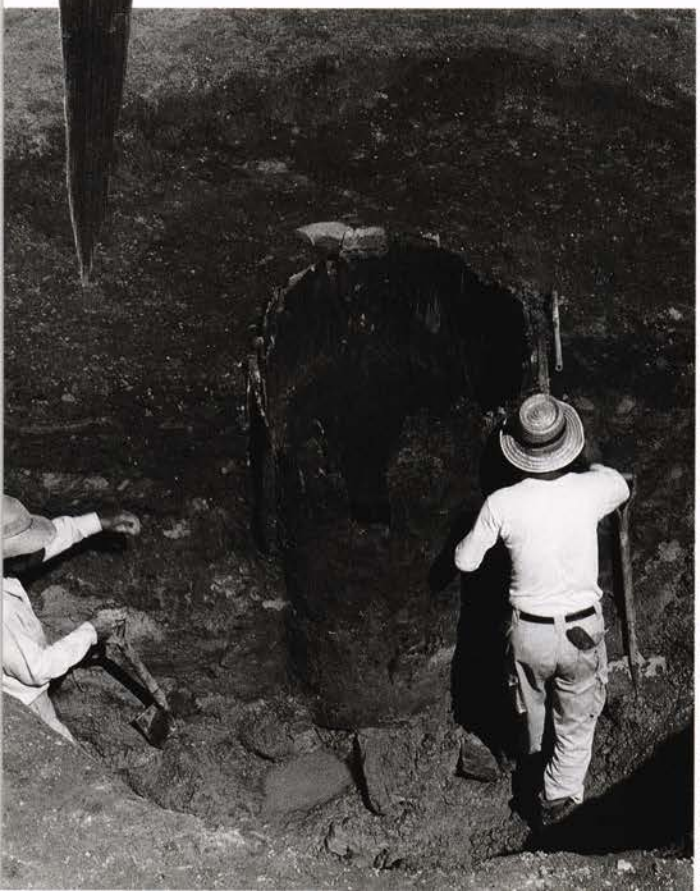
▼ 土師器の皿に書いた「養」

◀ 奈良時代のお金「神功開寳」

◀ まじないの木札（斎串）

▲ 大木をくり抜いた井戸

▲ 奈良～平安時代の建物



浄妙寺跡（宇治市教育委員会）

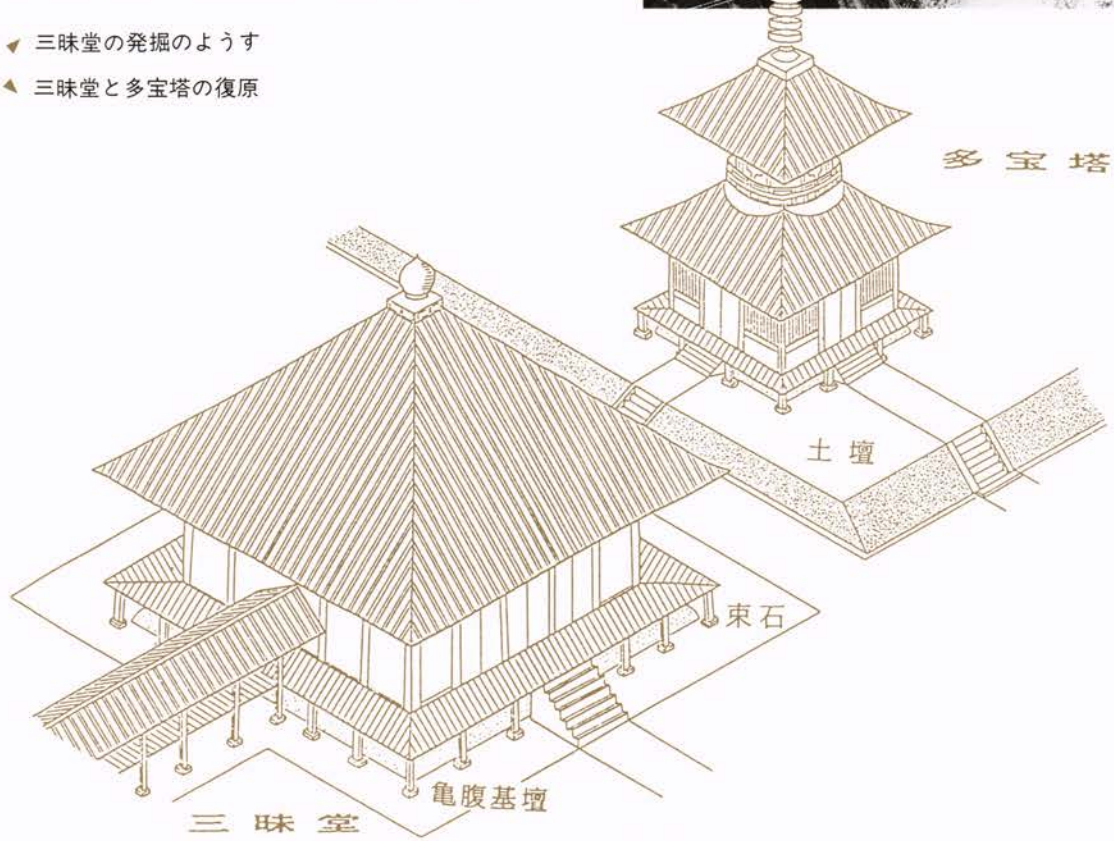
11世紀
宇治市木幡

藤原一門を供養した三昧堂と多宝塔

宇治市木幡のあたりは、平安時代に栄華を誇った藤原氏一門が墓所をもうけたところである。浄妙寺は、藤原道長が一門の供養を行うためにこの墓所の一角に建立したもので、寛弘2(1005)年に完成した三昧堂をはじめ、多宝塔・鐘楼・僧坊・南門・西門などが存在したことが文献からわかっている。

浄妙寺跡の中心部は現在宇治市立木幡小学校になっている。運動場部分に残されていた三昧堂の位置を確定するために発掘し、三昧堂の遺構の全容とその東側にならぶ多宝塔の一部が明らかになった。三昧堂は一辺16mの方形の土壇（亀腹基壇）の上に五間四方の建物があり、土壇の周囲には縁を支える束柱の礎石などが残っていた。土壇の周囲などから瓦・青磁・建築金具などが出土した。歴史上著名な道長の遺跡として貴重である。

▼ 三昧堂の発掘のようす



▲ 三昧堂と多宝塔の復原

蟹満寺（かにまんじ）（山城町教育委員会）

7世紀
山城町綺田

国宝の釈迦如来像の伝来を明らかにする金堂

奈良県薬師寺の薬師三尊（やくしさんぞん）とならぶ白鳳彫刻の傑作といわれる、山城町蟹満寺の巨大な金銅造釈迦如来（しゃかにょらい）像の下から、白鳳時代の建物跡がみつかった。この建物跡は、西側約¼が発掘され、南北の幅が17.8m（60尺）あり、東西の長さは約28m（94尺）に復原される大規模なものである。江戸時代につくられた現本堂は、建物跡と方位が一致し、その中央にあり、釈迦如来像も建物跡の正面中央に位置することになる。建物跡の基壇は、瓦を積み上げて化粧した瓦積み基壇である。基壇の周囲から多量に出土した軒瓦などから、この建物が白鳳時代に創建されたことがわかった。

蟹満寺の釈迦如来像は、その伝来をめぐって古くから論争があったが、白鳳の創建当時からこの寺に伝来したことが明らかになった。

◀ 国宝釈迦如来像と瓦積み基壇

▼ 創建時の軒丸瓦

◀ 現本堂と発掘された基壇

瀬後谷瓦窯（せごだに）（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

8世紀
木津町市坂

平城宮創立期の瓦窯

京都府と奈良県の境にある平城山（ならやま）丘陵の谷あいにある。丘陵の斜面をトンネル状にくりぬいた地下式の登窯（のぼりがま）を2基発掘した。瓦を焼きあげる焼成部は、最初丸瓦をふせて階段を作り、排水溝にも丸瓦を使い、その後の窯の改修にも瓦を使うなど、瓦づくしの窯のようすがよくわかる。登窯としてはずんぐりむっくりの短いもので、登窯から平窯（ひらがま）へうつる過渡期の姿をしめしている。

ここで焼いた瓦は、平城宮の創立期のものだが、平城宮・京ではまだまとまって出土していない。この瓦を葺いた宮殿あるいは邸宅ははたしてどこか。

► 瓦を焼いた登窯 丸瓦をふせた排水溝が手前にのびる。

▼ 軒丸瓦と軒平瓦

瓦谷古墳（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

4世紀
木津町市坂

粘土槨から漆塗りの靫

京都府と奈良県との境の平城山丘陵にある直径30mの円墳。中央に粘土槨と木棺の二つの埋葬施設があり、古墳のまわりには埴輪棺・壺棺や小方墳が付属的に伴う。4世紀後葉。

最初の埋葬である木棺を粘土で覆った粘土槨は盗掘を受けていたが、小さな鉄板を綴じ合わせたヨロイ・カブト・武器・工具や石製の鏃が残っていた。隣の木棺は、靫・鏡・櫛・ガラス小玉・皮(？)製漆塗りのヨロイ・武器・工具など副葬品の全容が判明した。なかでも、鉄鏃・銅鏃を納めた漆塗りの靫は、細かな織りの美しい逸品であり、もとの形が復原できるほどによく残っている。

◀ 繊細な織りが美しい矢筒(靫)

▼ 埋葬施設の発掘

▲ 幾何学文様を描いたツボ

► 銅の矢尻と石の矢尻

▲ 鉄板を綴じ合わせたヨロイ

▼ 左右にヒレのついた円筒埴輪

その他注目の遺跡

下西代古墳群（京都市西京区）

京都市の西の郊外、大原野一帯は、平安京の遷都に功績のあった秦氏一族の居住地として古くから開けていた。

下西代古墳群はこの地に数多く築かれた古墳時代後期の群集墳のひとつで、今回２基の古墳が発掘された。そのうちの１基（**２号墳**）は、通常の横穴式石室の玄室にさらに小さな石室をもつという、全国的にも例のない特殊な古墳であることがわかった。

恭仁宮跡（加茂町）

恭仁宮は、天平12（740）年に奈良の平城宮から移された都で、存続期間は３年余りと短かかったが、その跡地は山城国分寺に再利用された。1973年から京都府によって発掘調査が行われ、今回の調査では、いまの国会議事堂にあたる**朝堂院の西南コーナー**と、これまで不明であった宮の南を区切る築地塀（大垣）や二条大路・朱雀大路など恭仁宮を解明する上で重要な発見があいついだ。

珍品あれこれ

▼ドーナツ形の体部に口をつけたツボ(平瓶)
大宮町阿婆田窯跡　8世紀

▲木製の扉
亀岡市千代川遺跡　8世紀

► 日本で最大級の須恵器のカメ
大山崎町下植野南遺跡　5世紀

▲超ミニの硯
向日市長岡宮跡第250次調査　8世紀

▼大形の勾玉の表面に小さな突起を多数つけた子持勾玉
加茂町恭仁宮跡下層　5世紀

展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
遠所遺跡	砂鉄・鉄滓・木炭・鉄器・砥石	一括	6～8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	フイゴ羽口	3	8世紀	〃
大耳尾古墳群	須恵器	11	6世紀	峰山町教育委員会
	鉄刀	1	〃	〃
	鉄製鏡板付き轡	1	〃	〃
	玉類	一括	〃	〃
阿婆田窯跡	須恵器環状提瓶	1	8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
霧ヶ鼻古墳群	須恵器	4	6世紀	宮津市教育委員会
	鉄製農工具	5	〃	〃
	鉄鏃	2	〃	〃
	玉類	一括	〃	〃
内和田古墳群	銅鏃	2	3～4世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	5	〃	〃
蔵ヶ崎遺跡	弥生土器	6	前3世紀	〃
	石ノミ	1	〃	〃
蛭子山・作山古墳群	動物形土製品	4	4世紀	加悦町教育委員会
	鶏形埴輪	1	〃	〃
	円筒埴輪	1	〃	〃
	土師器壺	1	〃	〃
	石釧	3	〃	〃
	玉類	一括	〃	〃
桑飼上遺跡	玉原石・石ノコ・管玉・砥石	一括	前2世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
天若遺跡	石器	4	旧石器～前1世紀	〃
	須恵器	8	5～9世紀	〃
黒田古墳	銅鏡	1	3・4世紀	園部町教育委員会
	鉄鏃	一括	〃	〃
	管玉類	一括	〃	〃
	土師器	1	〃	〃
塚本古墳	木製埴輪	1	5世紀	京都府教育委員会
	円筒埴輪	2	〃	〃
	動物線刻埴輪	3	〃	〃
八木嶋遺跡	須恵器	2	6世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	2	4～6世紀	〃
	墨書土器	6	9～10世紀	〃
	玉類	7	6世紀	〃
	二面硯	1	9～10世紀	〃
	鉄鏃・刀子	2	6世紀	〃
千代川遺跡	木製扉材	1	8世紀	〃
平安京跡	緑釉軒丸瓦	1	9世紀	〃
	金箔飾瓦	1	16～17世紀	〃
	近世陶磁器	7	〃	〃
	朝鮮王朝陶磁器	2	〃	〃
伏見城跡	金箔瓦	1	〃	〃
	鯱瓦	1	〃	〃
	土師器	5	〃	〃

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
長岡宮跡第248次	緑釉陶器	2	8世紀	向日市埋蔵文化財センター
	軒丸・軒平瓦	6	〃	〃
	釘・かすがい	2	〃	〃
	墨書土器	2	〃	〃
長岡宮跡第250次	ミニチュア円面硯	1	8世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
長岡京跡左京第252次	軒丸・軒平瓦	5	8～9世紀	〃
	緑釉陶器	1	〃	〃
	凝灰岩切石	1	〃	〃
今里城跡	瓦器羽釜	1	15～16世紀	長岡京市埋蔵文化財センター
	備前系小壺	1	〃	〃
	軒丸瓦	1	〃	〃
	墨書土器	1	〃	〃
	羽子板	2	〃	〃
	木簡	1	〃	〃
	漆器椀	1	〃	〃
	木球・下駄・刀形木製品	10	〃	〃
雲宮遺跡	弥生土器	5	前3世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	弥生木葉文土器	4	〃	〃
長岡京跡左京第251次	人面墨描土器	7	8世紀	京都市考古資料館
	ミニチュアカマド	2	〃	〃
	須恵器・土師器	5	〃	〃
	土馬	2	〃	〃
下植野南遺跡	須恵器大甕	1	5世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
浄妙寺跡	軒丸・軒平瓦	6	11～13世紀	宇治市教育委員会
	鬼瓦	3	〃	〃
	灰釉陶器	1	〃	〃
	青銅製飾釘ほか	7	〃	〃
	石鍋	1	13世紀	〃
	青磁	2	〃	〃
内里八丁遺跡	鴞形土製品	1	4世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	石帯	1	8世紀	〃
	稲株ハギトリパネル	1		〃
興戸遺跡	墨書土器	2	8世紀	〃
	土師器	1	〃	〃
	銭貨	2	〃	〃
	斎串	2	〃	〃
	井筒	1	〃	〃
蟹満寺	軒丸・軒平瓦	6	7～8世紀	山城町教育委員会
	青磁椀	1	14～15世紀	〃
	土師器羽釜	1	16世紀	〃
恭仁宮跡下層	子持勾玉	1	5世紀	京都府教育委員会
瓦谷古墳	銅鏡	1	4世紀	京都府埋蔵文化財調査研究センター
	鏃形石製品	2	〃	〃
	銅鏃	1	〃	〃
	鉄鏃	4	〃	〃
	鉄製甲冑小札	一括	〃	〃
	壺形埴輪	1	〃	〃
	ヒレ付き円筒埴輪	1	〃	〃
瀬後谷遺跡	軒丸・軒平瓦	2	8世紀	〃
	丸・平瓦	2	〃	〃

第9回 小さな展覧会 京都発掘'91 発行日／1991年8月17日
編集・発行／財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617 向日市寺戸町南垣内40−3 ☎075−933−3877 印刷／㈲関西プロセス

主 催 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
協 賛 向日市文化資料館 後 援 京都府教育委員会